



— 真の更生を目指して —

組織としてのオリーブの家

新年を迎え、早いもので10日を過ぎようとしています。この記事を書いているのは私の誕生日（1月10日）。今日で満75歳を迎えました。この2月号が皆さんのお手元に届くのは、おそらく2月の初め頃だと思いますが、あと1か月もすると私の第二の誕生日「2011年3月3日」を迎えます。出所当初はこれほど元気で長生きできるとは思ってもいませんでした。

内閣府は2022年版「高齢社会白書」を公表しました。日常生活に制限のない期間（健康寿命）について、2010年と2019年を比較したところ、男性は2.26年伸び72.68年、女性は1.76年伸びて75.35年でありました。平均寿命の伸びを上回る数字となっています。

これは運動習慣の割合が高くなっている事と、少子化から高齢者の働く場が多くなっているのも原因の一つと考えられます。健康寿命を超えた私にも素晴らしい職場（オリーブの家）が与えられています。ファミリーとの交わりを通して、命の大切さを学ばせて頂いています。主に与えられた人生をどのように生き、

どのようなゴールへと向かうべきか！先日、中川健一先生のメッセージで、★長寿は、人生のゴールではない。★生かされている間に悔い改めの実を結ぶことが人生のゴールである。

と、教えられました。その長寿真っ只中の私だからこそ、この言葉が胸に響きます。私の「悔い改めの実」とは何かを考えました。私には主から託された大切な「オリーブの家」という組織があります。現在もハーベスト・タイム・ミニストリーの皆様や熊本への支援者の皆様が役員としてオリーブの家を支えて下さっています。そして多くの支援者の皆様がオリーブの家を応援して下さいます。

1月8日zoomでの役員会が行われました。その場での議論、その後のメールのやり取りを含め、強く感じた事は、私の「悔い改めの実を結ぶ」場としての組織（オリーブの家）の有り方です。

私同様スタッフのほとんどが体験者ですが、若いスタッフは自分なりの夢や希望を抱き働いてくれています。宿直専門スタッフは、ファミリーの服薬管理を含め夜間の

見守りに万全を期してくれています。主任職にあるスタッフは、ファミリー全員の把握、状況報告を怠りません。また、設立当初から役員として関与してくれていた人が、昨年末からオリーブの家の参謀役として実務に関わってくれました。

参謀役といえは歴史上の人物で思い浮かぶのは天下を取った豊臣秀吉の弟の豊臣秀長です。生涯、天下人を支え、縁の下の方持ちに徹した人でありました。参謀役がしっかりした組織は大小に関わらず強固なものだと私の体験からも感じています。

リーダー、参謀、現場を束ねる者、オリーブの家の5年、10年先を見つめ、2023年はどうあるべきなのか？ 神から託された組織としてのオリーブの家の型を「悔い改めの実を結ぶ」意味において、しっかりと追求していきたいと思う年初です。

「ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたさげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。」

（ローマ人への手紙12章1節）



オリーブの家
施設長
青木康正

ファミリーの声



主の御名を賛美いたします。寒の入りとともに厳しい寒波がやってまいりました。皆様おそろいでよき初春をお迎えのことと存じます。今年もまた、私のような者ではありませんがご指導を宜しくお願いいたします。今年の目標は感謝、笑顔です。すべてにおいて当たり前という考えを捨て、誰かのおかげ、誰かの優しさで、誰かの笑顔で毎年助けられている私なので今年は私も感謝の言葉を口に出し、常に笑顔で語れるようにしたいと思えます。

社会でも又、塀の中でも孤独では生きることができません。誰かを求め、交わりを求めます。しかし、それだけに人との関わりにおいて傷つきやすいです。誰にとっても人生における最大の悩みではないかと思えます。大きな困難があっても支えてくれる愛があれば立ち上げられます。

私も人様を支えられる人間になりたいと思っております。人を支え、寄りそってやれるようになるために、今まで以上に精進しなければいけないと感じています。常に愛をもって人と関われる、そんな余生を送りたいと心より思っています。

昨年中はずっと体調が悪く皆様にご心配をおかけしましたが、今年は感謝と笑顔の皆様に向けていけるように頑張ります。

今年もどうか宜しくお願いいたします。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

令和5年1月10日、お誕生日おめでとございます。先生と知り合えて人を信じれるようになりました。心より感謝いたします。ありがとうございます。社会で会える日を楽しみに今年一年を頑張ります。

(N・Kさん)



主イエス・キリストの御名を賛美いたします。明けましておめでとございます。昨年も大変お世話になりました。今年もどうか宜しくお願い致します。

いつも月刊オリーブ等を送って頂き感謝しています。月刊オリーブに掲載される皆さまの言葉に気付きを与えて頂き、そして励まされ、何より信仰の糧になっていきます。

初めに言葉があり、言葉は神と共にあり、言葉が神であった。そして、その神の言葉はイエスという肉体にとってこの世に來られた。聖書のみならず神の言葉を追い求め、その道すがら数々の困難を乗り越えつつ、その神の言葉に従うお姿。青木さんのその姿が信仰に生きる者、信仰に生きようとする者の模範であり、糧となつていきます。少なからず私はそのことに気付き感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年は12月に入ったとたん寒くなる日が多くなり、九州でもたくさん雪が降ったのではなかったでしょうか。こちらは大雪でした。

そんな中、お身体大丈夫でしょうか。コロナもおさまったと思いきや、

寒さの強まりと共に感染者も増加している様子です。お気を付け下さい。昨年より同囚の方から聖書についてや、信仰についての疑問を教えてください。ほしいと言われ、私のわかる範囲で説明させて頂いています。教えるなんてことは、まだまだできません。それでも、たとえ少しでも興味を持って頂けることに嬉しく感じているところです。

1月10日は青木さんの誕生日です。おめでとございます。この一年も健康で幸せでいてください。そしてその背中からたくさんのことを教えてください。

(I・Aさん)

刑務所の中で「月刊オリーブ」を 読んでおられる皆さんへ

オリーブの家では、手紙ミニストリーズ「ノアの箱舟」活動を行っています。出所後、自立準備ホーム「オリーブの家」で学び真剣に社会復帰をしたいと考えておられる方、是非、文通を始めませんか？お待ちしております。



支援者からの

寄稿



被害者側と加害者側

― 癒し、赦し、和解

今井 洋子

13. 正しい人も、知恵のある者も、

彼らの働きも、神の御手の中にある

『弟を殺した彼と僕。』の原稿を書きながら、長谷川死刑囚は、原田さんが拘留所に来てくれたことがどれほど嬉しかっただろう、と思いました。

原田さんが長谷川さんと会うに至る契機は、長谷川さんからの手紙を開封したことです。私は、名古屋の浅野さんの家で「なぜ長谷川さんから来た手紙を開けようと思ったのですか？」と原田さんに尋ねています。原田さんの答えは「なんとなく」とか「なんでかなあ」と要領を得ません。何度聞いても原田さんの返事が煮え切らないので私は内心イラっとしていました。

原田さんは長谷川さんを「ゆるしていない」と言います。ですが長谷川さんは、そう思っていないかと思えます。そのことで原田さんは「ゆるされたと思った長谷川君に腹が立った」と言いました。

ゆるさない原田さんの魂はふらふらとさまよい、神であるイエスを信じた長谷川死刑囚は心の平安を得ている……。何をしたとかしないとか、死刑囚だとか善良な市民だとかに関係なく「誰でも」「信じるだけで救われる」。私たちの日ごろの常識ではキリストの愛と救いは理解しにくいと思えました。

長谷川死刑囚は、ひとが見ていないところではどうだったのでしょうか。手紙や面会で回心したふりをしていないでしょうか。浅野真知子さんにその疑問をつぶやくと「刑務官をしていたクリスチャンで、長谷川さんと『中』で接した人がおるんだわ。今は、辞めているけど『長谷川さんの信仰は本当だった』って言うってたよ」と答えてくれました。

原稿が長谷川さんの死刑執行に及んだときです。弁護士から借りた資料に教会での葬儀の次第がありました。葬儀では讃美歌312番が歌われていました。「いつくしみ深き友なるイエスは」で始まる讃美歌です。調べると学校の音楽の時間に「星の世界」として歌ったことがあるメロディでした。私は、そつと口ずさんでみました。3番にきたとき予期せず涙が溢れてきました。「世の友われらを見棄てるときも……」。世間や人がどうであってもしっかり見捨てず、本当に心と心を通わせてくれるのがイエス

なのだ、と頭でなく、私の内側深くが受け取ったのだと思います。原田さんも孤独の中でさまよっていたかと思えますが、犯罪被害者でも加害者でもない私もまた、深い心の奥に、神の必要を抱えていたのだ、と今にして思います。

そんな涙は忘れていた数カ月後のある日。私はふいに「手紙を開封した原田さんに理由がないことは、そこに神が働いた証拠なのではないか。神の恵みではないか」と思いました。客観的根拠はないのに妙に納得がきました。同時に原田さんにイラついたことが申しわけないと思えました。

今井 洋子

いまい・ようこ



1966年金沢市生まれ。東京大学文学部卒業。信託銀行勤務、専業主婦を経て、子どもを教える仕事をしながら、ノンフィクションを書いている。2004年受洗。2007年ハーベスト聖書塾修了。2008年よりNPO法人「オリーブの家」理事。前川ヨウの名前で、原田正治著『弟を殺した彼と、僕。』（2004年、ポプラ社）を構成者として執筆。雑誌「東京人」2001年3月号に「二・二六事件―被害者の娘と加害者の弟の物語」、2006年8、9、10月号に「二・二六事件ある青年将校の弟」を寄稿。



オリーブの家で 見つけた笑顔



熊本市斎場に1月16日9時、オリーブの家のファミリー、スタッフ総勢15名が集い「♪君は愛されるため生まれた」を賛美して『石井祥一』さんを天国へお送りしました。

召天されたのは、14日の朝方(4時16分)です。病室には静かな賛美が流れていて人生を全うされた安堵、まるで眠っているような安らかな顔でした。

斎場では施設長より、残された私たちは、いかに生きるべきかと、聖書より勧めのお話を聞きました。石井さんの人柄に集まったみんなの気持ちが一つになるかのようにでした。オリーブの家で共に時間を過ごした一人びとりが、石井さんを通して「私たちの国籍は天国にある」、目を上にあげよといわれているようでした。オリーブの家は、同じ仲間・共同体なのだと感じた貴重な時間でした。感謝!

理事長 小原順子



2022年10月～12月会計報告

		10月	11月	12月
月次自立準備支援人数		5名/7室	4名/7室	4名/7室
グループホーム利用者数		8名/8室	8名/8室	8名/8室
累計ファミリー数		147名	147名	147名
先月より繰越		5,462,373	5,815,904	4,423,710
収入	自立準備ホーム	775,170	861,038	689,634
	献金	1,223,400	729,300	1,291,334
	グループホーム	1,638,462	1,917,049	2,105,455
	その他	297,502	195,700	239,775
収入合計		3,934,534	3,703,087	4,326,198
支出	家賃	611,350	611,350	621,350
	水道光熱費	197,451	182,097	191,802
	食費	454,868	410,989	475,711
	人件費	1,658,900	2,333,381	2,011,892
	活動費	181,256	101,354	88,479
	その他経費	427,178	1,406,110	456,589
施設準備積立金		50,000	50,000	50,000
支出合計		3,581,003	5,095,281	3,895,823
収支合計		353,531	-1,392,194	430,375
施設準備積立金より取崩		0	0	0
翌月繰越現金預金		5,815,904	4,423,710	4,854,085

12/31時点：施設準備積立金残 3,050,067円

全国のオリーブの家をご支援くださる皆様へ
今月もたくさんのご支援を頂き、誠にありがとうございます。さて先月、「第二オリーブの家」購入のための手付金100万円についてご報告させて頂いたいただきましたが、残念ながら公庫からの融資が降りず、計画を中止せざるを得なくなりました。詩篇37:5に「あなたの道を【主】にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。」とあります。これもみこころだったと静まってまた祈って新たなスタートをする決意です。今後とも宜しくお願いします。

副理事長 永山太

※人権費には冬季賞与3名分300,000円が含まれています。第2オリーブ購入手付金1,000,000円の返金計上は翌月になります。

銀行 振込	肥後銀行(銀行コード:0182) 京町支店(支店コード:156) 口座番号:(普通)1574408 口座名義:NPO法人オリーブの家 トクヒ オリーブノイエ	郵便 振替	銀行名:ゆうちょ銀行(金融機関コード:990) 口座番号:17180-5444801 口座名称(漢字):NPO法人オリーブの家 口座名称(カナ):トクヒ オリーブノイエ (他銀行からお振込の場合は) 店名:七一八(読み:ナナイチハチ) 店番:718 口座番号:(普通)0544480
------------------	--	------------------	--



月刊オリーブ
2023年2月1日発行
(毎月1回発行) 第93号

編集・発行 NPO法人「オリーブの家」
〒860-0082 熊本県熊本市西区池田2丁目9番1号コーポ池田201
TEL 096-342-4123 FAX 096-342-4248 E-mail 0110harvest@gmail.com
<http://seishoforum.net/olive-house/about/>

